

(別紙4(2))
目標達成計画

事業所名 : ぐるーぷほーむ やすらぎ

作成日 : 平成23年11月10日

目標達成計画は、自己評価及び外部評価結果をもとに職員一同で次のステップへ向けて取り組む目標について話し合います。目標が一つも無かったり、逆に目標をたくさん掲げすぎて課題が焦点化できなくならないよう、事業所の現在のレベルに合わせた目標水準を考えながら、優先して取り組む具体的な計画を記入します。

優先順位	項目番号	現状における問題点、課題	目標	目標達成に向けた具体的な取り組み内容	目標達成に要する期間
1	1(1)	職員にとって身近なものとなるよう具現化した理念を全職員で検討し、ケアの規範となっていくことを期待したい。又、職員のみならず、入居者・家族、運営推進会議など、ホームに関わる方々にも周知していくことが望まれる。	ぐるーぷほーむやすらぎの理念を全職員で考案する。運営推進会議に利用者様家族も参加してもらうように案内する。	理念の考案・参考的なものを全職員で閲覧し、自分の考えを出してもらい、幾つかの理念にまとめて、選んでもらい、施設の理念とする。運営推進会議時に、参加が可能な利用者様をお誘いする。	3ヶ月
2	2(2)	管理者は地域の祭り見学のみならず、入居者にもできる参加(祭りで使用する、ろうそく立ての竹筒にペイントや文字入れ等)を、地域の方々の協力を得ながら実施していきたいと構想中である。実現に期待したい。	施設利用者の皆さんで、竹に飾りをしたり絵を描いたり、彫り物をしたりして、来年の秋宵祭りとときに明かりを灯せるように工夫し飾る予定。	施設職員と町のみなさんへ話し、今年の秋宵祭りの竹をもらっておく。来年の秋祭りに備えて、製作できるように申し送り、少しずつでも進めるようにし、来年の秋祭りには飾れるようにする。自分で作った竹の飾りを見て楽しめるようにする。	12ヶ月
3	35 (13)	これまでに近隣の参加を得た訓練が実施されており、今後も地域への訓練参加を呼びかけ、備蓄などの検討も望まれる。又、業務日誌などの中に最終火元確認項目を設けることで職員の意識付けに繋がることが期待される。	毎月、火災避難訓練、通報訓練を交互に実施し、近隣の家の参加を促す。備蓄については法令にそって対応をしたい。業務日誌の確認事項の追加、最終火元確認が出来るように作成し直す。	毎月の火災訓練・通報訓練の実施。近隣の家の参加呼びかけを行なう。業務日誌への確認箇所の作成をし、新しい申し送りに記入してもらう。	12ヶ月
4	40 (15)	職員は弁当などを持参し、一緒に食事を摂っており、交代で入居者と同じものを食すことで、検食も兼ねた量や味の確認にも繋がることが期待される。介助が必要な方へも十分な見守り体制がとられており、エプロンの使用方法については検討いただきたい。	検食の実施をする。利用者様と楽しみながら食事をする。エプロンの使用はしない。タオルにて対応をする。	検食の実施と記録ノートの記述を行い、食事の時、楽しい会話ができるように心がける。職員が交代で実施する。エプロンの使用は	12ヶ月
5	45 (17)	浴室を利用される方が気持ちよく入れるよう、脱衣所の物品については配慮が望まれる。	脱衣場の整頓を行い、他人のものと混ざらないように管理する。	毎週定期的に整頓・掃除を行い、騒然としない様にする。各自の持ち物が混ざらない様に区別して保管できるようにする。実施の有無を申し送る。	12ヶ月

注) 項目の欄については、自己評価項目のNo.を記入して下さい。項目数が足りない場合は、行を挿入してください。